

平成25年度

女川町まちづくりワーキンググループ 第1回 定例会だより

女川町役場復興推進課

まちづくりワーキンググループが再始動しました！！

昨年度、復興まちづくりに町民の意見を幅広く反映させることを目的に、まちづくりワーキンググループ（以下、WG）を設立し15回のワークショップ（話し合い）を開催しました。6つのテーマ（公共施設、福祉・交通、商業・観光、漁業・水産、教育、公園）について活発な議論を行っていただき、提言書として取りまとめていただきました。今年度は、提言書をベースに、テーマ毎に、より具体的な検討を深めていくため、WGを再始動しました。

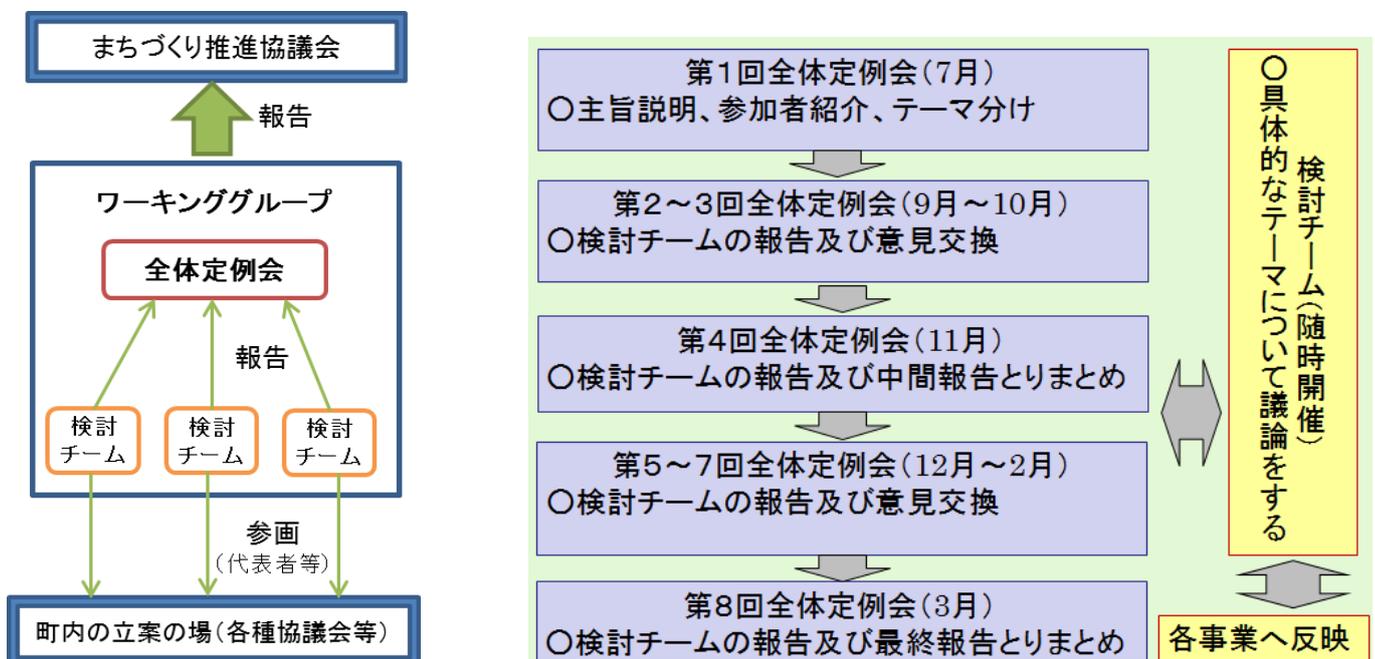


第1回全体定例会開催概要

平成25年7月29日に、今年度最初の定例会が開催されました。開催にあたり、須田町長より、町民の知恵を結集してまちづくりを推進していきたいとのあいさつがありました。今年度は、復興の進捗と連動した個別テーマ毎に検討チームを立ち上げ、復興まちづくりの具現化に向けた議論を行ってまいります。さらにWG代表者には、町内の立案の場にも参画していただく予定です。

- 【個別テーマ（第1弾）】
- (1) 運動公園の再生
 - (2) 公共施設の再配置
 - (3) 教育環境と小中の連携
 - (4) 観光交流エリアの整備

平成25年度ワーキンググループの体制とスケジュール



グループワークまとめ（発表要旨まとめ）

今年度のWGの流れの説明を受けた後で、今後の全体定例会、個別の検討チームにおける議論が円滑に進むよう、参加者間の交流を深めることを目的にグループワークを行いました。

「復興まちづくりにおいて、自分の得意分野・活かせること」をテーマに、4グループに分かれて、WGメンバー同士の交流を深め、話し合いの中で出てきた意見をまとめて、代表者が全体に向けて発表をしました。



グループ①	グループ②
海が素晴らしい女川の良さやホタテやホヤ等の養殖に取り組みされている方の力を活かして、“水産観光業”を展開することも考えてみたい。教育・福祉についてはスポーツ振興や子育て支援、特に子供が遊べる場づくり等に力を入れていきたい。	第一に女川町出身でない人がグループに多く、外からの視点を活かしたい。第二に海や山等の自然を活用した観光を展開していきたい。第三に地域医療や建設（防災）に携わってきた人の経験を活かして地域を守っていききたい。第四に子育てのアドバイスや子供と触れ合う機会が多い人の経験を活かして、子供がたくさんいるまちを作っていきたい。これらを含む要素として「若さ」（勢い）が大事であると考えた。
グループ③	グループ④
キーワードは6つ（自然環境・教育・福祉・観光・スポーツ・水産業）これらは相互に関連し合っている（例：教育と福祉）。 漁業組合で働いていた経験からわかる漁師さんの気持ち、区長の経験からわかる住民の気持ち等をくみ取って、観光や水産業の振興、コミュニティ再生に取り組んでいきたい。	観光を重視している。家のデザインをされている方からは新たなブランド、特産品づくりを行い、新たな観光客を呼び込む活動をしたいという意見が出された。また、震災によって従前のコミュニティの機能が喪失している。転居先等で新たなコミュニティが形成されつつあるが、災害公営住宅等が作られると再びコミュニティが分離されてしまう可能性があり、議論する必要がある。そして、働く場（雇用）についても検討することが大事であると考えた。

今後の開催予定

●第2回全体定例会

日時：平成25年9月3日（火）18時30分～20時30分

場所：女川町役場仮設庁舎2階第1会議室（予定）

内容：専門家による講義と勉強会 テーマ：（仮）地域コミュニティと住民参加型まちづくり

講師：北原啓司（弘前大学教授）

●検討チームワークショップの開催について

※ 検討チームのメンバーが決まり次第、随時開催します。

 ワーキンググループに参加したい方（町外からのオブザーバー参加含む）、復興まちづくりに対するご意見のある方は、下記までお問い合わせください。

女川町役場 復興推進課 復興調整係 TEL 0225-54-3131（内線239）